

JIM-NET 便り

2018 年 10 月 20 日
特定非営利活動法人 JIM-NET
(日本イラク医療支援ネットワーク)
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場
4丁目4番11号 内藤ビル2C

チョコ募金 2019 が始まります

鎌田 實 (JIM-NET 代表理事・医師)

いつも JIM-NET に対し、厚いご支援を感謝します。

イラク現地の医療水準を上げるために、JIM-NET は薬剤の供給だけではなく、病院スタッフの質を高めるお手伝いをしてきました。そのために、専門家として千葉大学の国際看護学専門の伊藤先生に、イラクに行っていたいただき、現地で指導をしていただきました。金澤看護師がアルビル事務所に駐在し、ナナカリ病院の看護の質を高めるシステムの構築をしています。

さらに、イラク全土の医療従事者を、エジプトの 57357 医療病院でトレーニングができるような支援も準備しています。バグダッドの病院の現地スタッフ、アブサイードは、院内学級や貧困患者支援などを行い、イラク政府とも交渉し、JIM-NET のイラクでの NGO 登録なども実施することができました。

長崎を拠点にし、日本のどこにいてもいい絵本を読めるようにする事業展開をしている「童話館」が、バスラの病院で白血病の子どもたちが最適な治療できるように、薬剤の供給を中心にし

て、1000 万円の寄付が行われました。現地スタッフのイブラヒムが、バスラの病院の院内学級を行ったり、イラクにはないケースワーカー的な仕事も行い、子どもや貧困家庭を支えています。

いよいよ今年は、新しい JIM-NET ハウスがアルビルのナナカリ病院の敷地内に完成します。日本政府からの補助金も貰いながら、完成が待ち遠しいところです。そのほか、難民キャンプ支援、福島支援なども行ってきました。

これらの多様な活動を維持

するためには、どうしても資金が必要です。その資金を支える最も大きな力となっているのが、チョコ募金です。今年は 15 万個用意しました。いつもより早いスタートを切ります。

ぜひ、キックオフイベントにお越しください。そして、ご参加できない方は、ぜひ SNS などを通して、チョコ募金を拡散していただければと思います。

ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

※本事業 (JIM-NET ハウス建設) は日本 NGO 連携無償資金協力の助成金を受けて行っています。



今建設中の JIM-NET ハウス。左より鎌田代表・ナナカリ病院事務部長・佐藤 JIM-NET 事務局長。2018 年 7 月撮影



2018 年 11 月 15 日 (木) 電話受付開始 03-6908-8473 受付時間 10:00 ~ 16:00 (平日)
ホームページ / FAX / 郵送も 11 月 15 日 (木) 受付開始 URL <http://jim-net.org> FAX 03-6908-8474

NEWS

- チョコ募金 2019 が始まります 鎌田 實 (JIM-NET 代表理事) 1
戦場のたんぽぽ 佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長) 2
JIM-NET は、こんな支援活動をしています
金澤絵里 (JIM-NET アルビル事務所スタッフ) / 斎藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当) / 佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長) 4
九条は 70 年間、日本と世界の人を守ってきた 八木倫明 (ケーナ奏者 / 作詞家) 4

特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット) 電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net

Facebook アカウント名、『jim-net』で検索 Twitter アカウント名、『JIM_NET』で検索 HP はこちらの QR コード→
郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット (募金・サポーター会費はこちらへお願いします)



戦場のたんぽぽ

佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）



今年のチョコ募金タイトルは「戦場のたんぽぽ」です。

4月、アルビルの大地には、緑の草が茂り、公園や病院の庭にも手入れしたバラが咲き乱れ、最高の季節です。もう数カ月もすれば50℃を超える地獄の夏が訪れるというのに。

モスルは対照的です。イスラム国（IS）から解放され一年経つのに、復興は進んでおらず、旧市街は激しく壊されたままです。花の絵を描いてもらおうと思いましたが、地味にたんぽぽが咲いているだけでした。

避難キャンプから戻り、がれきに埋もれた家を片づけ、暮らし始めた人々は、たんぽぽのようなたくましさがありました。イラク戦争に始まり、シリアの内戦、あふれ出る難民。街ごとそっくり破壊されたゴーストタウン。戦争にはみなもううんざりなのに、それでも上空にはヘリコプターが飛んでいる。こんな時代をどう生きていきますか？

枯れてしまっても、綿毛が宙を舞い、種をまいていく。どんなに遠くにでもふわふわと届いていく。そんなチョコレートを作りたいくて、子どもたちにたんぽぽを描いてもらいました。ぜひメッセージを受けて止めてください。



ISから解放された直後のモスル旧市街 © 鈴木雄介



モスルのたんぽぽ

ラワン（9歳）とワサン先生

モスルのイブンアルアシール病院のワサン先生のどこがすごいかというと、イスラム国（IS）に占領されても、「がんの子どもたちを捨てては逃げられない」といってモスルに残って患者を治療していたこと。そして底抜けに明るい。ISが逃げるときに火を放ち病院は、ま真っ黒こげになってしまったけど、みんなで煤を削って、花柄の壁紙を張って、まるでヨーロッパのホテルのようにしてしまった。JIM-NETもTVを何台か寄付して、完璧に五つ星に！チェックポイントで止められても、クルド自治政府の検問であろうが、イラク軍の検問であろうがお構いなし。「子どもたちに菓を届けるのよ」と言うと、皆リスペクトして道を開けてくれる。

昨年8月には、TBSの記者を連れてモスルを案内していた。オンエア映像では、目と鼻の距離で仕掛け爆弾が爆発し、足元にはミイラ化したIS戦闘員の遺体が転がっている中を闊歩しているのではないか！

ワサン先生がある日、嬉しそうにメッセージを送ってくれた。

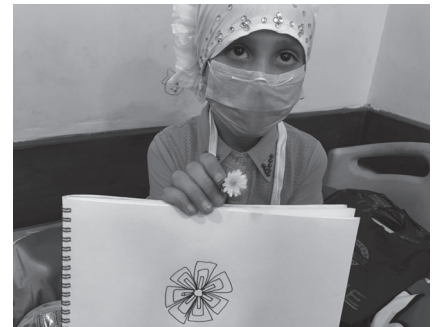
自分の肖像画。ワサン先生が美しくも、勇敢に描かれている。

ラワンという9歳の女の子が描いたという。

この子にとって、いかにワサン先生が、あこがれの先生かというのが一目でわかる。

ラワンは、モスルから南に下ったシャルカートという村の出身。7人兄弟いる。この町はISに占領されていた。お父さんの名前がサダム・フセインというだけで、ISがいなくなっても仕事につけない。2017年の8月に体調が悪くなり、がんだと診断された。抗がん剤治療を始めたが、全く効かず、このままでは死を待つのみだという。

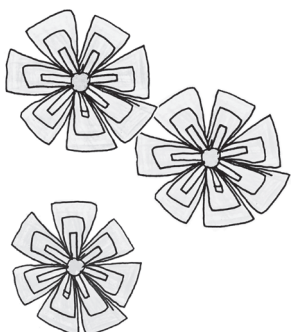
そこで、ヨルダンのキングフセインがんセンターで正確な診断を受けることになり、検査費をJIM-NETがカバーした。その後正確な診断がつき、治療が順調に進んでいる。



イブンアルアシール病院の庭に咲いていたタンポポを、ラワンは一生懸命に描いた。



ラワンが描いたワサン先生





✧ クルドのたんぽぽ ✧

アブデルアジーズ (16 歳)

出会ったのは 2014 年の暮れだ。アブデルアジーズは、マクムールというアルビルから南に 50km くらい離れたところに暮らしていた。マクムールは、クルドかアラブか帰属が宙ぶらりんになっている地域で、踏んだり蹴ったりの地域の一つである。14 年 8 月には、IS に襲われ、アブデルアジーズのお父さんも、家族をアルビル市内に避難させると、戻ってきて IS と闘った。空になった給水タンクに身をひそめ、ペシュメルガ（クルド自治政府軍）に協力して弾を込めたり、傷ついた兵士を運んだりした。米軍の空爆もあり、マクムールは解放されるが、常に IS との戦いの最前線に位置し、米軍の基地もあり、IS が化学兵器を使った攻撃を仕掛けた。

16 年の 3 月末には自爆テロが市内で起こり、アブデルアジーズの家も大きく揺れ、壁の数か所に大きなひびが入っていた。町はゴースタウンのようになっていた。

しかし、アブデルアジーズの精神状態はとても不安定で、数年前から切れやすく、ナイフを持って両親に襲い掛かったことも何度あったという。精神科に掛かるも、お金がなく、薬も途切れ

途切れになり、見た感じも相当やばいという引きこもりになっていた。

折角、骨髄移植までして生き延びたのに、ここで、人を刺したりして人生を無駄にしてほしくない。早速、精神科の治療を受けられるように病院の送り迎えや、精神安定剤などの薬代を支援することにした。学校は、先生と同級生にからかわれたのをきっかけに行けなくなってしまった。いつもマスクをかけておびえている。

しかし、最近始めた、斉藤亮平音楽教室でリコーダーを覚え、笑顔を見せるようになった。へたくそな、スタッフのバルザンに教えることも。



リコーダーを手にするアブデルアジーズ



✧ シリア難民 ✧



ローリンの絵は 2016・17 年度のチョコ缶にも使われた。

2011 年、シリア内戦が始まる。民主主義を求めて立ち上がった若者たちに待ち構えていたものは、あまりにも悲惨な現実だ。

ローリン (18 歳)

2000 年にカミシリで生まれた。2012 年、クリスマスに神様が届けたのは、皮肉にも「白血病」という名の贈り物だ。

カミシリは、シリアの最北端でクルド人が多く住む田舎の町。バスで揺られて 4-5 時間かけてダマスカスの病院に通う必要があった。しかし、ダマスカスの状況は日増しに悪くなっていった。ローリンの一家は、もはやダマスカスでの治療をあきらめ、イラクへ渡った。

ベイルーニ病院はローリンが通っていた病院だ。ダマスカスの郊外にある。周辺は IS の戦闘員が入り込み、ダマスカスから切り離されて飛び地のようになっていた。

「それでも、私たちは一度も治療をやめたことはありません」ハリッド医師は毅然として言い放った。しかし、ロシア軍の協力

を得て始まった首都近郊のテロリスト掃討作戦が始まると、4 カ月は病院を別の場所を借りて治療を続けたという。

その間に、ハラスト、カーブン、ジョーバルといった周辺の町は無くなってしまった！ いかに激しい戦闘だったか。2018 年、ベイ

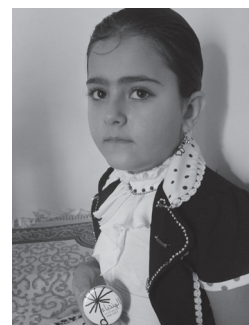
ルーニ病院が再開したが、病院にも弾痕が残り、迫撃砲を受けたと思われる病棟は破壊されたままだった。大統領夫人は、内戦前から小児がん支援には熱心だった。内戦後は政治的文脈で絡み取られて、語られがちだが、そんなことには関係なく子どもたちの治療を続けた来た医療関係者たちは、あっぱれだ！

ルナーヒー (8 歳)

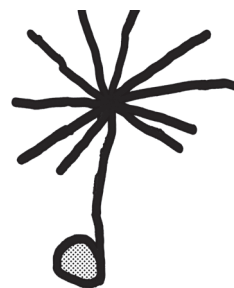
シリア難民。2013 年にイラクに避難し、難民となる。兄のドルバン (20 歳) が、ノンホジキンリンパ腫でナナカリール病院に入院。兄のお見舞いに来ていたので、たんぽぽの綿毛を描いてもらった。

ドルバンはコシュタパ難民キャンプで暮らしていたが、高校を出てパン屋で働いていた。お父さんはキャンプ内で雑貨屋をやっていたが、息子の治療のために職を失った。ドルバンは酸素吸入をして容態が悪そうだったが、その 1 カ月後には亡くなった。

難民キャンプでは、彼の友人が 28 のサッカーチームを集め、ドルバン・カップを開催した。その様子は地元の TV でも報道された。お父さんは、病院の医者も皆よくしてくれたと感謝し、息子が、「お父さんが、いつも同じ服を着ているのが申し訳ない。新しい服を買ってあげたかった」といって息を引き取ったことをとても誇りにして、涙を流した。



自分の絵がついたチョコ缶を手にするルナーヒー



▶イラク小児がん支援

JIM-NET では、主に小児がんに対する医療支援を行っていますが、治療を終えたあと、学校に戻るためのサポートだけでなく、様々な理由から社会との繋がりが疎遠になっている子どもたちに対して、美術や音楽を通してケアを行う取り組みをしています。子どもたちの病状や家庭環境や背景、心理状態などもそれぞれ違うため、今後も患者さんやその家族と良好な関係を保ちながら、一人ひとりに合ったプランを検討し、ケアを継続的に提供していきたいと考えております。

現在の JIM-NET ハウスの進捗状況ですが、ほぼ外観は出来上がってきており内部も配管や電気の配線なども組み始め、問題なく建設は進んでいる状況です。完成後は、患者さんのご家族に対する宿泊施設だけでなく、音楽、美術など子どもたちのアクティビティのための部屋も用意され、多目的に利用される施設として運営される予定です。(JIM-NET アルビル事務所スタッフ 金澤絵里)

▶シリア難民支援

JIM-NET ではイラクとヨルダンにおけるシリア難民支援を実施してきました。6 月に来日したイラク・エルビル事務所スタッフのリーム（シリア人）が現在エルビル郊外にあるダラシャクラン難民キャンプにて定期的に現場を調査し、医療支援を行っています。特に母子医療の分野には力を入れています。日本のみならず国際社会においても難民となったシリア人への関心は薄れ、支援額も大幅に減少しているのが現状です。しかし難民キャンプに暮らすシリア人の状況は変わらぬままです。不足する医薬品、病院までの交通費などだでさへ厳しい生活の中、病気に罹ることで生活がより困窮します。またシリア国内で小児がんに苦しむ子どもたちもいます。今後は紛争下で苦しむ小児がんの子どもたちへの支援を実施できるように準備を進めてまいります。紛争開始からもうすぐ 8 年を迎えるシリア。医療支援を中心に少しでも彼らを支えるよう、引き続き皆様のご支援のほどよろしくお願いいたします。(JIM-NET 海外事業担当 斉藤亮平)

▶福島支援

JIM-NET はチョコ募金から毎年 300 万円を福島支援にあてています。

子どもたちを放射能から守る活動として 2018 年度上期は以下の支援を行いました。

① 「～ふくしまの子ども夏休み～検診と保養でリフレッシュ！ IN 松本」 JCF に助成

福島で放射能に向き合いながら暮らす 8 名の親子が松本で 3 泊 4 日過ごし、信州大学附属病院の小児科で尿検査と血液検査を行いました。

② 北海道帯広で「どんぐりとやまねこ」が実施したサマーキャンプに参加した子どもたちにサカベコ・ワークショップを実施。夏の思い出作りに花を添えました。15 人の子どもたちが参加しました。

また、福島を元気に、未来を考える活動として

① 福島ユナイテッド FC 会津開催会場でのサカベコ・ワークショップ

100 人のサポーターの参加者があり、チームの勝利を願うとともに、西日本の豪雨の災害に関してお見舞いのメッセージを参加者が書きました。

② 福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ 2018 福島・ドイツ高校生交流プロジェクト
アース・ウォーカーズ主催

福島の高校生 9 人が夏休みに 2 週間ドイツを訪問し、東日本大震災と原発事故の体験を英語で報告しました。また、ドイツの高校を訪問して放射能や省エネに関する授業を見学し、「文科省に入って教育システムをよくしていきたい」などと決意を語る福島の高校生もいました。

下期は、甲状腺がんの子どもたちへの支援も行っていく予定です。(JIM-NET 事務局長 佐藤真紀)



JIM-NET スタッフ斉藤亮平による音楽療法

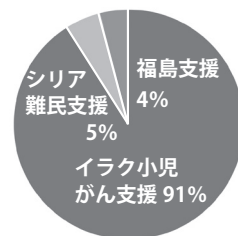


ダマスカス郊外のハラストにあるベイルーニ病院の小児がん病棟。この地域は激しい内戦があった



信州大学附属病院の小児科で健診

昨年度は、チョコ募金より 88,249,227 円が集まりました。皆様のご協力ありがとうございます。プロジェクトの比率は以下をご覧ください。



♥九条は 70 年間、日本と世界の人を守ってきた

八木倫明（ケーナ奏者／作曲家）

チョコ募金のキックオフ・イベントで演奏させていただくことは、大変光栄です。チョコ募金に協力してきたのは、人間の暮らしで何をおいても平和が基本、というボクの強い想いから。音楽家という職業は、平和でなくなると真っ先に影響を受けます。最初に影響を受けるボクらが、平和を願いながら沈黙してはいけません。キング牧師が言いました「最大の悲劇は善人の沈黙である」。この言葉が胸に刺さります。

安倍政権のあからさまな改憲への動きに危機感を持っている人は多い。平和主義者の中にも「自衛隊員は頑張っているのだから、憲法で認めてあげてもいいんじゃないか」と思い始めている人もいるかもしれない。そんな人には「九条」は休んでいたのではなく、70 年間、日本と世界の人々の命を守ってきたことに気づいてほしい。

ベトナム戦争で死んだアメリカ兵は 58000 人。生還後自殺した元米兵は 135000 人。たくさんのベトナム人を殺したことが、トラウマとなって精神を病んだ人が多い。戦死者の 3 倍近くの元兵士が自



漫画：小澤一雄

死を選ぶ。この事実だけでも戦争の狂気を感じられます。

ベトナム戦争で韓国兵が 5000 人戦死した事実は、日本ではあまり知られていない。韓国兵が殺したベトナム人は、この数の何倍かになるでしょう。韓国には平和憲法がないので、アメリカが始めた戦争に巻き込まれる。憎くもないベトナム人を殺しに行かなくてはならない。ベトナム人は最近まで、アメリカ人よりも韓国人が嫌いでした。最初に攻めてきた敵よりも、それに協力したアジアの同胞に強く恨みを持つ。

ベトナム人は当時、沖縄を「悪魔の島」と呼んでいました。沖縄の米軍基地から、爆撃機や枯れ葉剤などの毒薬を積んだ飛行機が飛んで来る。これほどアメリカの戦争に協力しても、日本人の生命が守られてきたのは「九条」のおかげ。自衛隊が日本軍となって、外国人を殺しに行かなくて済んだ。自衛隊員の死者もなかった。解釈改憲で自衛隊も安保も認められた現実があっても、専守防衛という最後の砦だけは守ってきたから沖縄が「悪魔」役になっても日本人は守られてきました。沖縄の犠牲の上に日本の平和があったことも忘れてはいけません。

チョコ募金 2019 キックオフ

戦場のたんぼぼ Give Peace a Chance!

2018 年 11 月 9 日（金）18:30 開場 19:00 開演

会場：南大塚ホール（JR 大塚駅南口から徒歩 5 分）

お問い合わせ・ご予約は TEL03-6228-0746 info-jim@jim-net.net